



研究室紹介

社会学部 心理学科

OTA Jin

太田 仁 教授(社会心理学)

関西大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程修了。博士(社会学)。公認心理師。法務省矯正局法務教官、三重県の公立高校教員を経て、梅花女子大学大学院にて勤務後、2019年4月より本学着任。「生きる意欲を支える対人関係」をテーマに研究し、近年では部活集団の健康度や若者の自殺予防について研究・実践を展開。著書は『家族をつなぐカウンセリング—家族と自分にやさしくなるために—』『たすけを求める心と行動—援助要請の心理学—』(金子書房)、『学校における自殺予防教育プログラム GRIP』(共著、新曜社)など。社会的実践として、全国の関係者、保護者、シニアを対象に、受講前より受講後に対人関係に意欲的になる講演(開発的カウンセリング)を展開。5分に1度は笑える講演は、日常のストレスや鬱憤が晴れると好評。中高校生向けの講演「なぜかモテる子モテない子」は、中高生だけでなくシニアまで全世代に好評で、外見の魅力だけでなくグッドタイミングでジャストフィットな援助授受が支える対人関係の基礎であることの啓蒙に効果を発揮している。2013年にはアメリカSan Joseで在米の日本人家族に向けて子育ての開発的カウンセリング、2018年には三重県全県の民生児童委員を対象とした開発的講演で好評を博した。

本学社会学部心理学科には、「臨床心理学」と「社会心理学」の2つのコースがあります。太田仁教授が専門とする「社会心理学」では、社会=対人関係ととらえることにより人の心と行動を理解します。「生活に役だっこそ学問」と語る太田教授。ゼミでは、学生一人ひとりの対人行動に対するこだわりを大切に、科学的な視点からその理由を分析し、無理なく、楽しく生きるための方法を研究開発しています。

ルーツを探る奈良大学ならではの心理学！

本学では地理・歴史・文化財・文学の日本の原点(=ルーツ)を探る研究が盛んです。そこで社会学部そして心理学って？と思われる人もいるかもしれません。

今から約2400年前にアリストテレスは「人は、ソーシャルアニマルである。=人は支えあえる社会の一員として初めて人間らしく生きられる」と指摘しました。人の交流は喜怒哀楽を伴い、離合集散が繰り返されます。その過程はそのまま歴史的過程となり地理的環境により制限され多くの文学や芸術を生み出しました。

本学心理学科での学びは、歴史や文化財、地理、文学によりルーツを探る他学科の仲間とのクロスオーバー(=交流)により、現代人が忘れがちな心のルーツを探る特色を有します。

自分と出会い、仲間と出会い、社会と出会う心理学

私の専門は、社会心理学で特に対人関係の心理学を専門としています。研究テーマは「援助行動」です。援助は、日常で使われている「愛」という言葉の一つの要素とも言えます。赤ちゃんの頃、何も自力ではできなかった私たちは、誰かに無条件で愛されることでこの命を紡ぐことができました。人は愛されている実感も無いのに役割や義務で人を愛し続けることはできません。その事実を見据えて、現在も愛の行方を見失って苦しむ人たちの心を救うための研究と実践を続けています。

日常と職業生活に役立つ心理学

心理学科を進路に選択したとき、「心理学→カウンセラー」といったイメージが大半を占めていて、周囲の人から「カウンセラーになるの？」と質問され、戸惑ってしまう受験生は少なくありません。

社会心理学の成果は日常の対人関係だけでなく、接客・営業活動でも大いに活用されています。例えば社会心理学の研究成果に「類似性の法則」や「単純接触効果」があります。インスタで自分とよく似た年恰好の人たちがたくさん「イイね♡」をつける食べ物や、お店を見かけてとても気になった経験はないでしょうか。また、最初はそれほど興味がなかったり、あまり好きではなかったりするものや人でも、頻繁に目に触れたり、一緒にいることが増えるにつれて以前より良い印象を持つようになったという経験はないでしょうか。前者の「類似性の法則」は販売促進に、後者の「単純接触効果」は営業活動に役立つものといえ、就職活動や卒業後の人生に大いに役立つ学びができるのです。

 奈良大学
NARA UNIVERSITY

ならぶ Vol.182 ●発行:令和元年10月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山腰町1500 TEL.0742-44-1251(代) URL <http://www.nara-u.ac.jp/> E-mail kounou@nara-u.ac.jp ●編集:奈良大学広報室



ならぶ
Na Love

Nara University Bulletin Vol.182

Contents

- 1 創立50周年記念特集
- 5 活躍する卒業生たち
- 8 通信教育部生だより
- 9 トピックス
- 11 令和元年の新入生に聞きました!
- 12 入試日程
- 13 インフォメーション
- 15 研究室紹介
社会学部心理学科
太田 仁 教授

創立50周年を迎えて



理事長
市川 良哉

奈良大学は創立50周年を迎えました。時代は18歳人口が激減へと向かい、大学経営の厳しさを提起しています。この機会に、私たちは半世紀にわたる歴史の重みを顧み、建学の精神のもと人材の育成、教育の充実、経営基盤の強化を柱に邁進いたします。

本学は昭和44年(1969)奈良市宝来町1230番地に、文学部国文学科・史学科・地理学科の3学科を入学定員各50名、収容定員600名として開学しました。創設者・藪内敬治郎理事長は「大和は私の郷里であり、私はこれを誇りとする。この地に学舎を起こして青年の魂を養うことは年来の願いであった。『青年を示せ、しからば国の将来をトせん』とあるように、青年こそがその国を拓く力があると信ずる」と宣言され、社会に有為な人材の育成を目指しました。昭和54年(1979)文化

財学科を増設しました。

時移り、18歳人口の急増と、やがて減少する時代に備えて昭和63年(1988)、奈良市山陵町1500番地の現キャンパスに全面移転して、社会学部社会学科・産業社会学科(現・心理学科・総合社会学科)の増設、「教学の理念」の制定、大学院文学研究科・社会学研究科設置、更に、生涯学習時代を迎えて通信教育部(文学部文化財歴史学科)を開設しました。この間、外にはモンゴルの調査・研究、レバノンのローマ時代の遺跡の調査・研究・修復事業に努め、内にはこのたびの能動的学修に供する令和館の建設にいたるまで施設・設備の整備を図り、教育・研究の充実に努めました。現在、全学約3600名の学生が在学し、また、約26400名余の卒業生を輩出し、その多くはいま国の内外に活躍されています。ここに歴代の理事長、学長、教職員の皆さんのご尽力と、多くの方々のご支援に深く感謝いたします。

翻って、学校法人奈良大学(旧法人名・正強学園)の淵源は藪内敬治郎先生が大正14年(1925)、向学の精神に燃えながら、経済的に恵まれず進学を断念して働く青年たちに、私財を投じて開校された無月謝の南都正強中学に遡ります。生徒たちは無遅刻、無欠席で勉学し、先生方は創設者の高い教育理想に共鳴され無報酬で教壇に立ち、生徒に親しく向き合い指導されました。学生一人ひとりに向き合う教育はいまに継承しています。

建学の精神は「努力すること」、「正しく生きる」ことの大切さを標榜されました。自ら課題を見出し、考えを重ね、解決に向かって不断に努力すること、倫理・道徳にかなう正しい生き方を確立すること、これは創設者の青年への愛と激励のこころでありました。現代の科学技術の発達人類の将来に何を齎すのか見えにくいものがあります。しかし、この建学の精神こそは不変であると信じます。私たちは「奈良大学 基本構想と中期教育第1次(2019-2023)計画」並びに「第3期中期財政計画」通り、建学の精神のもと、人材の育成、教育の充実、経営基盤の強化に向けて、5年毎のPDCAサイクルを繰り返し、私学がもつ独自の教育に努力を傾注いたします。

次の半世紀に向けて!



学長
清水 哲郎

平成時代の終わりも間近に迫った本年4月28日、本学は創立50周年という節目の年を迎えました。翌5月には令和元年という新しい時代へのスタートを切りました。これまで、さまざまな困難がありましたが多くの諸先輩方のご努力、ご尽力でそれらを乗り越え、今日の発展につながっていることに、あらためて敬意と、深い感謝を申し上げる次第であります。

現在、50周年記念事業として、新棟の建設や、既存施設の改修、また各種記念イベントの開催などを計画・実施しております。新棟建設では、「これまで積み重ねてきた歴史を未来に伝え、新たな発見や学びと出会い、深める」場所をコンセプトに、1階はセミナールーム等アクティブ・ラーニングを促進する学修環境の整備が行われ、今年度スタートした新カリキュラムを強力にバックアップします。2階のエントランスホールでは本学所蔵の四天王像が訪れる人々を出迎えます。また地域社会への大学開放のシンボルとして200名収容の講義室が設置され、そこでは地域住民、またシニア層へのさまざまな教育サービスが新たに提供され、大学の「第三の使命」〈社会貢献〉が果たされる場となります。

本学では、すでに50周年を迎えるに当たり、中教審「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(平成30年度)を考慮に入れながら基本構想と中長期計画を策定し学内に公表しております。基本構想では、建学の精神の下、人材の育成と教育の充実、経営基盤の強化の3つを挙げ、また中期教育第1次5ヶ年(2019~2023)計画では、「学生一人ひとりを大切にする」教育施策が重要な骨子になっております。例えば、教育の質保証・向上を目指す教育課程の体系化・構造化と組織的展開、総合的支援体制の強化、生涯を通じた就業力の育成と進路決定の指導強化などで、いずれも本学が直面する重要かつ解決すべき課題であり、全教職員一丸となって解決に向けて鋭意努力していく所存です。

これまで多くの皆さまによって築かれた歴史と伝統の下、創立50周年を新たな歴史の幕開けと捉え、次なる半世紀に歩を進めてまいります。これまでと同様に本学への温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ほうらい みささき
宝来キャンパスから山陵キャンパスへ

開学時:昭和44(1969)年4月

1学部3学科でスタートを切る



正面玄関



スペイン階段と
本部棟(左)、研究室・教室棟(右)



図書館

- 設置学部、学科
○文学部 国文学科、史学科、地理学科

現在:令和元(2019)年10月

昭和63(1988)年 現キャンパスに全面移転



正面玄関



図書館

- 通学部:2学部6学科
○文学部 国文学科、史学科、地理学科、文化財学科
○社会学部 心理学科、総合社会学科
- 大学院:2研究科4専攻
○文学研究科
国文学専攻(修士課程)
文化財史科学専攻(博士前期・博士後期課程)
地理学専攻(修士課程)
○社会研究科
社会学専攻(修士課程)
- 通信教育部:文学部 文化財歴史学科
- 附属施設:
図書館、情報処理センター、博物館、臨床心理クリニック

令和館 誕生!

— 創立50周年記念事業 —



アクティブラーニングスペース



オープンプレゼンスペース

授業やセミナーなどに使用する壁のないスペース。学会発表や研究発表、学生のプレゼン練習や模擬授業に活用します。



グループワークスペース

オープンスペースに、人数によって組み合わせができる机とキャスター付きの椅子を配置。学生のグループディスカッションやグループワークに利用できます。



セミナールーム

人の視線から適度な緊張感を得ることができる、ガラス張りのスペース。授業スタイルに合わせてレイアウトを変更できるので、ゼミ、セミナー、グループワークなど、幅広く活用します。

新たな学びのスペースとしてオープンした令和館。

学生の自発的・能動的な学修を支援する「アクティブラーニングスペース」と、学会や研究発表、地域社会への開放講座等を行う「講義室」を備えています。また、本学所蔵の木造四天王像、彫刻家・太田昭夫(1930～1988)作の鹿をテーマとした木彫『高清』を展示しています。

学生の皆さまは、ぜひ「アクティブラーニングスペース」を利用して学びを深めてください。また、来年度より、令和館「講義室」において、シニア世代対象の学び直し講座や女性のためのセミナーなどを開講し、地域の皆さまに活用いただく予定です。

講義室

200人の収容が可能な講義室。地域社会への開放講座や学会、各種講演会、セミナーなどを開催します。



エントランスホール

来訪者を出迎える木造四天王像(持国天像、増長天像、広目天像、多聞天像)は、額安寺(かくあんじ)に伝来したもので、平成17[2005]年に本学が譲り受けました。阪神・淡路大震災(平成7[1995]年)で被災し、破損していたため、平成26[2014]年度から修復実習などで順次調査し、解体修理と台座の補作を行いました。修理過程で、「行基大菩薩御作 菅原寺」などの墨書銘文が発見され、四天王像は当初は菅原寺[法相宗別格本山喜光寺(きこうじ)]にまつられ、明治の廃仏毀釈の際に寺を離れたと考えられます。



10月8日(火)に令和館の竣工式が挙行されました。市川良哉理事長、清水哲郎学長、関係者によるテープカットの後、令和館2階講義室で行われた式には、設計・施工関係者のほか本学教職員ら約80人が参列しました。



テープカット



竣工式の様子



法相宗喜光寺 山田法胤住職による四天王像開眼法要

UltraNet株式会社 代表
社会学部社会調査学科(現 総合社会学科)
2016年3月卒業

山口
翔平
さん



メッセージ

日々の生活の中で、当たり前な事を当たり前と思わず、今ある環境に感謝し、一歩踏み出す勇気を持ってチャレンジし、失敗してもそこから学ぶ事が、たくさんあるので、とりあえず一歩踏み出してみてください。人生1度きり、楽しみましょう！！



新規事業の生産委託工場にて

南米ベネズエラで輸出と販売

奈良大で学んだ調査法と経験

南米ベネズエラの首都カラカスで、従業員3人の会社の代表として働いています。防虫蚊帳(かや)を柱に、石鹼や日用雑貨などを中国で生産し、ベネズエラで販売する会社です。

大学時代から、「人と違うこと・誰もしていないこと」をモットーに活動していました。英語の重要性を感じていたので、休学して海外留学し、英語力を磨きました。留学先はあえて日本人の少ないアイルランドを選びました。そこで出会った親友の1人は、現在私の会社で働いてもらっており、欠かせない存在になっています。

大学在学中の2015年、祖父の会社が経営する貿易会社に入社し、同年にベネズエラで起業しました。初めて手掛けた事業は、現在も本業としている防虫蚊帳の販売でした。当時、日本の繊維産業は、生産コストの低い中国や南米の影響を受け、国内生産が減少し、衰退傾向に。日本の繊維製品がコスト面で海外に勝てない。では何で戦うのかというと、日本の「技術」しかありません。そこで、日本の技術力を活かした防虫蚊帳で勝負しようと思いました。繊維に防虫剤を練り込んだ、マラリアの予防対策にも使われる蚊帳です。ビジネスチャンスの宝庫である新興国をターゲットに検討を進め、卒業論文では『ナイジェリアにおける防虫蚊帳ビジネスのマーケティング戦略』についての研究内容をまとめました。留学先で知り合った人をはじめ、いろいろな人との交流の中で得た知識や情報を基に、起業する国を南米のベネズエラに決めました。現地調査の際には、社会調査学科(現 総合社会学科)で学んだ調査方法や、ゼミで実際に行った数々の現地調査の経験が役に立ちました。

2016年に防虫蚊帳の輸出を開始、2017年には事業拡大し日用品の製造業を開始。中国の工場で製造したものをベネズエラへ輸出・販売し、2018年には、ベネズエラでの日用品の販路拡大を図りました。

現在は、ベネズエラの海産物を日本で販売する新規事業を推進中で、事業成功のため奔走しています。ベネズエラ産の伊勢エビを日本に輸入する事業は、日本で初めての試みだと思います。将来、日本とベネズエラの架け橋となり、関係をより深める手助けをしたいと考えています。

「コミュニケーション」と「突破力」

海外で起業するためには、英語の会話はもちろん、「コミュニケーション」が最も重要です。また、自ら飛び込み、切り拓いていく「突破力」が必要です。考え方や捉え方といったビジネススタンスは、海外との取引では日本の基準が通用しません。相手の国のビジネススタンスが求められます。当初、日本のように、決められた日時、約束事が守られないことにとっても困惑しました。そして、「忍耐」と「1歩ではなく、2歩先を読む力」が必要だと学びました。

起業の面白さは、成功も失敗も、すべてが自分に跳ね返ってくることです。自分の好きなことにチャレンジできるタイミングは限られていると思います。チャレンジに失敗はありません。失敗を次の成功につなげていくことが大切だと思います。

釧路市立美術館 学芸員
文学部文化財学科
2004年3月卒業

武束
祥子
さん



メッセージ

大学時代の4年間≒1461日。この持ち時間を、どうやって使うかは、みなさん次第です。

講義やサークル、バイト、習い事、挑戦したいことなど、どんどん行動してください。歩いた後には、きっと道ができています。



釧路市立美術館の収蔵庫内。
展示用作品の置き場が少ない現状、
仮置きで、どうしたら安全におけるか試行錯誤中。

文物から情報を読み、伝える

ふとした疑問を大切に！

大学の最寄り駅・近鉄「高の原」駅近辺に設置されている「夏」という銅像を、ご存知でしょうか？北海道釧路市にある「幣舞(ぬさまい)橋」の脚上にたてられた「道東の四季」の像のうち、彫刻家・佐藤忠良が制作した「夏」と、同じ石膏型から作られた作品。本来は幣舞橋のために作られた四季をテーマにした作品だと、釧路に勤めてから知りました。

美術館の学芸員は、自館のコレクションだけではなく、街・地域の美術品や文化財にも触れます。時には、個人宅や寺の倉庫で、思わぬものを見つけ、驚きの声をあげることも。何が、どのように表現されてきたのか、文物から情報を読み解き、考察し、結果を「伝える」ことが、今の私の仕事です。

しかしながら、大きな発見なんて、めったにありません。普段から美術に関するアンテナをはりめぐらし、小さな気づきや日々の感動を積み上げていくことが仕事の本質です。地道ですが、だからこそ展覧会として形になり、人々に伝わったときの喜びはひとしお。大学時代に学んだ、実際に作品を見ること、ふとした疑問を大切にする姿勢は、今でも生きています。例えば、冒頭に出た「夏」について疑問に思ったことがある方、釧路でそれを見ようという気概がある方などは、ぜひ学芸員を目指してほしいと思います。

イタリアで学んだ「修復とは？」

大阪の実家の母屋は、築300年の古民家です。そこで育った私は、10代の頃、古い建築や文化を伝える仕事につけないだろうか、と漠然と思っていました。そんな中、大学で関心事の素地を固めていくことで、自分の興味が歴史や文化財というより、「異文化の受容」にあるのでは、と思い始めました。方針を概念化できたことで、海外に身を置いてみようという気持ちになり、留学を決意しました。

大学を卒業してすぐ、イタリアへ渡りました。目的は、異文化を肌で感じること、文化財修復の概念を学ぶことでした。当初は語学学校に所属し、イタリアを中心に、オーストリア、ドイツ、スペインなどの修復学校を見学してまわりました。実際にどんな授業が行われているのか、自分の目でみたくったからです。結局、イタリア・ローマにある専門学校を選択しました。学費の安さ、何より油絵～立体物～壁画など、一通りのジャンルを学べるコースがあったことが決め手でした。

学校では、修復技術だけではなく、経理や見積書の作り方、そして、修復に関する理論をたたきこまれました。修復とは？哲学的な視点ですが、現在も常に考えているテーマです。作品の性質や修復の目的によって、内容が変化するからです。

実はこうした修復や保存の理論は、いま日本の美術館にも広がっています。目下の課題は現代美術の保存。ビデオやPCなど、技術革新が激しい機器の保存や作品の再現はどうしていくべきでしょう。今後は更に、多面的な思考と柔軟な態度が要求される仕事になってくるものと感じています。

富士川まちづくり株式会社
文学部史学科
2018年3月卒業

植松
桃子
さん



メッセージ

学生時代に、たくさん学んで、たくさん経験してください！

社会に出る予行演習にもなるので、部活やサークルに入るのもいいですしアルバイトもいいと思います。

そして、遊ぶ時は思いっきり遊んで大学生活を楽しんでください。

科学館で企画・制作

お客様の「楽しい！」がモチベーション

歴史の勉強がしたい、そして親元を離れ、自立した大学生活を送ってみたいと思い、文化遺産や自然遺産に恵まれた立地にあり、歴史・考古関係の図書が充実している奈良大学を検討しました。オープンキャンパスに足を運ぶと、雰囲気もよく、ここで学べたら楽しいだろうなと思い、入学を決めました。落ち着いた環境の中で歴史を学んだ大学での4年間は、学業以外でもいろいろな経験をし、今に役立つことがたくさんありました。一人暮らしで精神面・生活面での自立ができたこと、剣道部のマネージャーを4年間続け、人をサポートすることに楽しさを感じたこと、部活動のOB・OG、先輩と接したり、アルバイトをする中で、来客・接客のビジネスマナーが身についたこと、など。

「卒業後は地元へ」と思っていたので、地元静岡県の実業に就職しました。富士川まちづくり株式会社は、富士市にある道の駅「富士川楽座」を管理・運営する会社です。「富士川楽座」は、一般道、東名高速道路から立ち寄ることのできる、富士山を望む道の駅で、年間350万人以上のお客様にお越しいただいています。飲食・物販のほか、「体験館どんぶら」、道の駅の施設としては全国的に珍しい、本格的なプラネタリウムがあります。私は科学館で、こども向けの実験・工作のワークショップや展示・イベントの企画・制作・実施を担当しています。また、プラネタリウムの投影や、小学校・児童クラブ・子ども会などを訪問してサイエンスショーを行うこともあります。

仕事のモチベーションの源は「お客様の楽しんでくれる姿」と自らが「楽しい」と思うことです。館内展示は、お客様に楽しんでもらえるよう、いろいろなアイデアを出して企画を立て、自分達で制作します。他の科学館を視察して情報収集することもあります。入れ替え期間は大変ですが、完成した時の達成感・充実感はひとしおです。お客様から「楽しかった！」という声をいただくと、とてもうれしく、頑張ろうと思えます。県外からのお客様もたくさん来館されるので、いろいろな方と出会い、お話しすることも仕事の面白さのひとつです。長く仕事を続けるには自分がその仕事を楽しい！と思えることが大切だと思っています。

通信教育部生
便り



卒業生 中井 万里子さん
(和歌山県在住)

全国の鈴木さん、 「鈴木屋敷」復元・再生プロジェクトをご存知ですか

2005年4月に開設した通信教育部は、開設2年後の2007年3月に第一期47人の卒業生(3年次編入学)を輩出しました。2019年3月末現在の卒業生数は1533人(男性885人、女性648人)です。在学生は全ての都道府県に住んでおり、最多は東京都の222人、以下、神奈川県176人、大阪府157人、奈良県127人と続きます。地元でのボランティア活動等、本学で培った学修成果を地域社会に還元している方、大学院進学、地元の歴史講座の講師を務める方など、卒業後のご活躍も耳にします。

中井万里子さんは、1年次入学し、最短の4年間で卒業され、2017年3月の卒業式では、通信教育部卒業生103人の代表として、清水学長から卒業証書を授与されました。現在は、「鈴木屋敷」復元・再生プロジェクトに、日夜取り組んでいます。同プロジェクトにご興味を持たれた「鈴木」姓の皆さまは、「藤白(ふじしろ)神社」のホームページをご覧ください。

最高の仲間と過ごした通信教育部

私は、和歌山県海南市に鎮座する藤白神社の権禰宜(ごんねぎ)です。藤白神社は、国史跡熊野参詣道紀伊路藤白王子跡で、平安時代末期に熊野から移り住んだ鈴木氏が全国に熊野信仰を流布する拠点としたところです。藤白王子が熊野九十九王子の中でも別格の五体王子として栄えた様子は、上皇・法皇の熊野御幸が盛んだった頃の参詣記に多く記されています。平安末期から院政期に巻き起こった熱烈な熊野参詣ブームの中で、藤白王子とその周辺の熊野参詣道を管理したのが藤白鈴木氏でした。

江戸時代以降も紀州藩の地士として活躍した藤白鈴木氏でしたが、その後衰退して昭和17年に断絶しました。藤白神社境内に現存する鈴木屋敷も荒れ果て崩壊寸前の危機に瀕していましたが、地元をはじめ多くの人々の長年の努力が実り「鈴木屋敷」の復元・再生プロジェクトが本格的に動き始めました。熊野参詣道の重要拠点であった藤白王子を中心に活躍した藤白鈴木氏の歴史と文化を再確認し、全国200万人といわれる鈴木さんのふるさととして「鈴木屋敷」を甦らせる、そして熊野参詣道を歩くために国内外から訪れる人々を迎え案内する施設として持続可能な活動・運営を目指しています。

「マニアで終わりがたくない」という思いに駆られて門を叩いた奈良大学通信教育部で得た知識と卒業論文執筆のために調査・研究した成果を活かし、このプロジェクトに全力投球の毎日です。

通信教育部で学んだ4年間は、予想以上に楽しく、齢50を過ぎてから初めて学ぶ面白さを知りました。日常のレポート作成や試験勉強は孤独でしたが、スクーリングで最高の仲間に出会えました。教室の最前列で受講した真夏のスクーリング、積雪に足をとられた真冬の学外授業、励ましあって受けたスクーリング放課後の科目修得試験、そして各自が課題を済ませてから集う夜毎の飲み会。最高の仲間と過ごした奈良大学での学びの日々は、いつでも昨日のことのように思い出せる私の一生の宝物です。卒業後の今も変わらず仲間達が送ってくれる熱いエールを胸に、これからも一生懸命頑張ります。



卒業式で清水学長から卒業証書を授与される中井さん



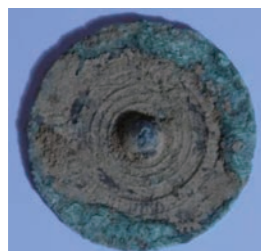
解体・発掘調査後の鈴木屋敷

Topics

4月

April

25日 甲塚古墳発掘調査で
成果発表



斑鳩町教育委員会と本学文学部文化財学科は報道発表会を開き、豊島直博教授と同町教育委員会文化財係長(文化財学科卒業生)荒木浩司氏が、調査担当者として発表を行いました。

共同で調査を行っている甲塚古墳で埋葬施設を確認し、古墳時代中期(5世紀)に製作されたと考えられる青銅鏡が出土したことから、甲塚古墳が5世紀以降に造営されたことが確定したと公表しました。

5月

May

18日 奈良市議会ワークショップに
本学学生が参加

奈良市役所で市議会第6回議会報告会が行われ、今回初めて議員と市民による

ワークショップが開催され、社会学部5人、文学部5人の学生が参加し、島本太香子教授(総合社会学科)と学生15人が傍聴しました。

第1部の議会報告を議場の議員席で傍聴した学生たちは、大会議室に場所を移動し、「みんなで考えよう！奈良市のまちづくり」をテーマにしたワークショップに参加、10のテーブルに分かれて、市議や市民の方と活発に意見を交換しました。

また6月7日には、参加学生の意見・感想のヒアリングを行うため、市議の方々が本学を訪問、市川良哉理事長、島本教授と総合社会学科の学生5人が出席しました。



31日 留学生歓迎会

学術教育交流協定を締結している中国・韓国の協定校から迎えた交換留学生の歓迎会が開かれました。市川良哉理事長、清水哲郎学長、関根俊一副学長(国際交流委員長)、尾上正人学生支援センター長、海外からの新入生や国際交流サークルのメンバーなど、約40人が参加し、軽食を囲みながら交流を深めました。津軽三味線同好会による歓迎演奏も行われ、参加者は楽しい

ひと時を過ごしました。



6月

June

29日 ホームカミングデー開催

大学創立50周年を記念して第1期卒業生の方もご招待し、ホームカミングデー、卒業生教育職員懇話会、名誉教授懇談会を開催しました。多くの卒業生や市川理事長をはじめとする名誉教授の先生方、教職員が参加し、懐かしい恩師や同窓生との再会を楽しみました。宮内庁正倉院事務所にお勤めの高畑誠氏(文学部文化財学科第31期生)による講演、懇親会のあと、午後の見学会では、関根俊一副学長の案内のもと、本学所蔵四天王像がさとがえり公開中の法相宗別格本山 喜光寺へ足を運びました。



7月

July

28日 『マインドフルネス入門
うつと感情的苦痛から自由になる』開催

奈良大学臨床心理クリニック公開講座が開催され、前田泰宏奈良大学名誉教授(公認心理師、臨床心理士)が講師を務めました。

講座では、ストレスやうつ・不安等の感情的苦痛に対する有効な心理学的支援法として、臨床の現場で近年注目されているマインドフルネスの概要と実践法が紹介されました。



31日 学校教員研修支援
オープン講座開催

本学近隣府県の教員を対象に、夏休みの自主研修として教材研究の一助となるよう開催している同講座。2022年度からGIS(地理情報システム)の活用を重視した必修科目「地理総合」が設置されることを受け、今年度も「地理授業へのGISの導入例と簡単な実習」と題して、

文学部地理学科の酒井高正教授と木村圭司教授が講師を務めました。

本学地理学科では、教員による高校での出前授業なども実施、現行の地理教科書に沿った内容の中でGISを導入、活用する方法を、実例を交じえて紹介し、地理教育を積極的にバックアップしています。

8月

August

27日 「県内大学生が創る奈良の
未来事業」で優秀賞受賞!

奈良県が実施する「県内大学生が創る奈良の未来事業」で、本学学生の政策提案「和歌発祥の奈良で現代の『短歌を詠む』文化継承を大学生の手で」が優秀賞に選ばれました。

受賞したのは文化系サークル「奈良大学現代短歌会」に所属する、文学部文化財学科3年生小江陽南子さん(代表)、肥田美咲さん、社会学部総合社会学科1年生成山素春さん、高橋聖名さんのグループ。

未来事業は、奈良県が県政のさまざまな課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生から政策提案を募り、最優秀賞と優秀賞の3提案については、学生が主体となり、次年度の事業化を目指します。すでに県の担当課とのフォローアップ検討会がスタートしており、4人は、社会学部総合社会学科島本太香子教授のサポートのもと、事業

化実現に向けての活動を進めています。



9月

September

27日 3年生対象
キャリアガイダンス開催

キャリアセンター主催の3年生向けキャリアガイダンスが行われました。きめ細かいサポートを行うため、学科別に行われたガイダンスでは、就職活動のスタートに向けて「就活のスケジュールやマナー」「就活の方法・注意点」「キャリアセンターの支援内容」などの説明が行われました。



試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など
AO入試 第4回目 心理・総合社会	エントリー:11/27(水)締切 本出願:12/2(月)~12/9(月)	12/14(土)	12/19(木)	【国文】 プレゼンテーション、面談 【心理】 体験講義受講、面談、レポート作成
AO入試 第5回目 国文・心理・総合社会	エントリー:2020・3/2(月)締切 本出願:2020・3/5(木)~3/12(木)	2020・3/20(金・祝)	2020・3/21(土)	【総合社会】 体験講義受講、面談、 (レポート作成も求める場合あり)
推薦前期入試(基礎学力、小論文)	10/15(火)~11/5(火)、窓口11/6(水)	11/14(木)	11/20(水)	基礎学力型は受験2科目、判定は 高得点1科目
推薦後期入試(小論文)	11/21(木)~12/6(金)、窓口12/7(土)	12/15(日)	12/19(木)	
一般入試 S日程	2020・1/4(土)~1/14(火)、窓口1/15(水)	2020・1/23(木)	2020・1/29(水)	受験・判定ともに3科目
一般入試 A日程	2020・1/4(土)~1/27(月)、窓口1/28(火)	2020・2/5(水)	2020・2/11(火・祝)	受験・判定ともに3科目
一般入試 B日程	2020・1/4(土)~1/27(月)、窓口1/28(火)	2020・2/6(木)	2020・2/11(火・祝)	受験は3科目、判定は高得点2科目
一般入試 C日程	2020・2/12(水)~2/25(火)、窓口2/26(水)	2020・3/3(火)	2020・3/7(土)	受験・判定ともに1科目
センター試験利用入試 A日程	2020・1/4(土)~1/31(金)	2020・1/18(土)、1/19(日)	2020・2/11(火・祝)	3科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
センター試験利用入試 B日程	2020・2/12(水)~2/27(木)	2020・1/18(土)、1/19(日)	2020・3/7(土)	2科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
センター試験利用入試 C日程	2020・2/28(金)~3/13(金)	2020・1/18(土)、1/19(日)	2020・3/20(金・祝)	2科目で判定(必須、選択は学科により異なる)
専門高校・専門学科・総合学科対象入試	11/21(木)~12/6(金)	12/15(日)	12/19(木)	面接、小論文 (実施学科は試験制度により異なる)
地域貢献入試	11/21(木)~12/6(金)	12/15(日)	12/19(木)	
芸術入試	11/21(木)~12/6(金)	12/15(日)	12/19(木)	

試験	出願期間	試験日	合格発表日	当日の試験科目など
大学院 春季	2020・1/8(水)~27(月)、窓口1/28(火)	2020・2/19(水)	2020・2/22(土)	試験制度および専攻により異なる

文学部 国文学科

大野 翼さん[愛媛県出身]

①高校の部活顧問の影響で、国語教員を目指そうと国文学科のある大学を検討。奈良県出身の先生から奈良大学のことを聞き、進学を決意。文学が好き、人が好き、話すことが好きな自分の個性を活かした国語教員を目指す！

②落語研究会「古都家(ことや)」の新入生歓迎寄席を見に行き、言葉を使って笑いを作る落語に興味を持ち入部。「古都家志季」の芸名を頂戴し、初舞台に向けて精進している。もっと皆に落語の面白さを知ってもらいたい。

文学部 史学科

木樽 柁さん[北海道出身]

①歴史を学ぶため、北海道から離島留学制度を利用し、長崎県の高校に入学した筋金入りの歴史好き。全国高校生歴史フォーラムで優秀賞を受賞し、奈良大学を訪れ、歴史を学ぶ環境が整っていることから入学を決意。古代史を学ぶため文化財学科と史学科を検討し、日本書紀、続日本紀を読み込みもうと史学科へ。将来は研究者として古代の都の庶民の生活を解明したい。

②入学後、飛鳥と斑鳩の発掘調査に参加した。奈良の地の利を活かし、遺跡の発掘調査に参加したり、現地を訪れ、歴史的思考力を培いたい。また、奈良大学図書館の古代の本を読破したい！

文学部 地理学科

金尾 僚泰さん[富山県出身]

①地図を見ることが好きな私にとって地理学科がとても魅力的だった。測量士補の資格が取れることも入学を後押しした。小さい頃から自分で地図を描いていたこともあり、地図の制作に興味があるので、測量の講義や実習が楽しみ。将来は測量関係の道に進みたい。

②大学での目的の一つは、人間関係を築くこと。先輩・同期・後輩との関わりの中からいろいろなことを学びたいと書道部に入部。中学・高校の授業で学びきれなかったいろいろな書体にもチャレンジしたい。

令和元年の **新入生に聞きました!**

記念すべき年に入学した2学部6学科の1年生に

①学科を選んだ理由 ②奈良大学でやりたいことを質問しました。

高い専門性を誇る本学では、地元奈良県の学生だけでなく、北は北海道、南は沖縄まで全国47都道府県出身の学生や海外からの留学生が学んでいます。今回は、あえて奈良県以外の出身の学生の声を聞いてみました。

文学部 文化財学科

許 榮聰さん[中国・香港出身]

①考古学に興味を持っているので文化財学科を選んだ。将来、大学院に進学して、文化財学をもっと深く学び、知識やスキルを身につけたい！そして、日本で、また香港で、博物館学芸員として仕事をしたい。

②保存科学について学んだり、遺跡の発掘調査などをたくさん経験したい。またクラブ・サークル活動や青垣祭などいろいろなイベントを体験したい。蔵書数が多い奈良大学図書館で歴史的な書籍を読みたい。

社会学部 心理学科

渡澤 こずえさん[愛媛県出身]

①人の心が対人関係によって強く影響される体験から、社会心理学に興味を持った。社会心理学を専門に学ぶことから奈良大学の心理学科へ！対人関係の心理学は日常生活から職業生活まで応用が広いので、人生100年時代にライフシフトを円滑にするライフマネジメントのプロを目指す！

②日本文化の発祥の地で学ぶ他学科の人との交流も深めて、日本人の行動原理について多角的な視点を養いたい！

社会学部 総合社会学科

辰巳 満紀さん[大阪府出身]

①「社会に出る」ことに具体的なイメージを持っていなかったため、大学に入って進路を考えようと思った。総合社会学科では、現実社会を理解するための社会学や経済学などを学び、体験実習などで実際に社会の現場を経験できると知り、自分にぴったりだと思った。

②いろいろなことにチャレンジして知見を広げ、自分を成長させたい。そして将来の目標を見つけ、積極的に進んでいきたい。

Information

第50回「青垣祭」のお知らせ

改元の年、そして本学創立50周年を記念する本年、「令和を彩れ！—50 for it—」をテーマに、11月2日(土)～11月4日(月・振)に開催します。

各クラブ・サークルによる展示・模擬店、恒例の野菜市は2日(土)～4日(月・振)の全日、2日(土)はこども遊園地、カラオケ大会、3日(日・祝)は「学天即」「祇園」「タナからイケダ」の3組によるお笑いライブ、移動動物園、こども遊園地、4日(月・振)は目玉企画である「04 Limited Sazabys」のプロコンサートライブ、フリーマーケットを予定しています。

博物館展示のご案内

本学と奈良市の包括連携協定に基づき、主催奈良市教育委員会、共催奈良大学による巡回展示「平城京の市と商売」を開催します。開催期間は奈良市埋蔵文化財調査センターが10月11日(金)まで、奈良大学博物館は、10月27日(日)～12月21日(土)です。入館料無料、事前予約不要。学校行事で臨時に休館する場合がありますので、来館前に、開館日時を奈良大学博物館ホームページ(<http://www.nara-u.ac.jp/museum/>)でご確認ください。



大学敷地内禁煙について

平成30年7月25日に公布されました「健康増進法の一部を改正する法律」を踏まえ、平成31年4月1日より大学敷地内を全面禁煙としました。

公共交通機関ご利用のお願い 青垣祭、全国高校生歴史フォーラムにお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

第13回全国高校生歴史フォーラム「成果発表・特別講演・表彰式」のお知らせ

奈良大学・奈良県主催の全国高校生歴史フォーラム。今年度は54校143編の研究レポートを応募いただきました。

11月23日(土・祝)には奈良大学に優秀賞受賞者を招き、フォーラムを開催します。成果発表や、学長賞・奈良県知事賞・奈良大学創立50周年記念特別賞の発表・表彰式を行います。また、佳作に選ばれた研究のポスター掲示も行います。特別講演は文学部文化財学科教授の関根俊一副学長による『奈良時代の東大寺と正倉院』。事前予約不要・観覧無料ですので、ぜひご参加ください。詳細は歴史フォーラムHP(<http://www.nara-u.ac.jp/forum/>)をご覧ください。



図書館企画展のご案内

展示室にて、下記の企画展を予定しています。

●開催中(11月28日(木)迄)

『奈良大学50周年「学びと研究の歩み」』

●12月10日(火)～2020年3月23日(月)

文学部国文学科による企画展示

『移動する女性の文学』

詳細は、奈良大学図書館HP(<http://library.nara-u.ac.jp/>)

でお知らせします。



近刊紹介～本学教員の著書～

◆スマホとPCで見るとはじめてのGIS—「地理総合」でGISをどう使うか—
時枝稜(文学部地理学科 2019年3月卒業)・
文学部地理学科・教授 木村圭司 共著
古今書院 2019年7月刊行

◆図書館・まち育て・デモクラシー
～瀬戸内市民図書館で考えたこと～
文学部文化財学科・教授 嶋田学 著
青弓社 2019年9月刊行

◆支えあいからつながる心
対人関係の心理学から
社会学部心理学・教授 太田仁 監修
ナカニシヤ出版 2019年10月刊行

◆近世京都寺社の文化史
文学部史学科・教授 村上紀夫 著
法蔵館 2019年10月刊行

◆歴史学で卒業論文を書くために
文学部史学科・教授 村上紀夫 著
創元社 2019年9月刊行

◆入門 万葉集
文学部国文学科・教授 上野誠 著
筑摩書房 2019年9月刊行

◆体感訳 万葉集
令和に読みたい名歌36
文学部国文学科・教授 上野誠 著
NHK出版 2019年7月刊行

附属高等学校

山陵祭

9月13日(金)、14日(土)に山陵祭文化の部が、9月27日(金)に体育の部が行われました。

13日(金)の大学講堂での舞台発表では、クラブやクラスなどの団体が歌やダンス、演劇、楽器演奏などに取り組み、笑顔あふれるパフォーマンスを披露しました。また、翌14日(土)は、高校で保護者や近隣住民の方々を迎え、中庭ステージ発表や教室での展示研究発表を行いました。駐車場には2年生と3年生の模擬店が立ち並び、天候にも恵まれて大盛況の一日でした。

27日(金)体育の部では、クラスごとに旗を掲げ、クラス対抗でそれぞれの競技を行いました。生徒たちは大きな声で、競技に取り組む仲間を応援していました。また、当日は、2日前から来校していたオーストラリアのキャンベラ市にある「アマルスクール」の生徒たちが、リレーや障害物競走、綱引きや大縄跳びなどの競技に加わり、本校生との交流を深めていました。



附属幼稚園

年長組の茶道体験

今年度は、奈良大学附属高校で茶道部の顧問をされていた新井先生に茶道の指導を受けることになりました。

4月、まずは先生たちが高校の作法室でお点前の指導を受けました。5月から6月にかけて幼稚園で行われた2回の練習では、基本的な所作だけでなく掛け軸に書かれた言葉「心」についても教えて頂きました。

抹茶の味を「おいしい!」と感じる子もいれば、「苦い!」と感じる子などさまざまでしたが、感性の豊かなこの時期に五感に働きかけ、楽しかったという経験をたくさん積んでほしいと思います。

現代は音にあふれ、何かとスピードを要求されることが多いです。茶道体験の様に静かな動作で器を運び、「心」を込めるといった体験はなかなか出来ないことです。とても良い体験をさせて頂きました。

また、普段の生活では正座をすることが少なくなっているせいか、時間が長くなると途中で足を投げ出す姿も見られました。正座に限らず、話を聞く時の姿勢は日常の保育の中でも積極的に取り組んでいきたいことです。

卒園前の参観日では子どもたちが保護者にお茶を点てて飲んで頂く機会を持つことにしています。親子で日本の文化に触れる機会を持つことが楽しみです。



奈良大学 茶室にて